大本山永平寺

臘月

十二月は一日より八日未明まで「臘八摂心会（ろうはつせっしんえ）」が行じられます。「摂心会」とは、心をおさめ坐禅に専心修行するという意味です。お釈迦さまは菩提樹の下で一週間の坐禅の後、明けの明星を見てお悟りを開かれました。そのみ跡を慕い早朝三時より夜九時まで一週間ひたすら坐禅に打ち込む日々が続きます。

摂心会が終わると山内に年の瀬の雰囲気が漂ってまいります。その一つに「歳末助け合い托鉢」があります。墨染めの衣に網代笠をかぶり、素足に草鞋をはいて読経しながら家々を巡ります。

この時季になると雪も降り始め、鈴や応量器を持つ手がかじかみ、雪を踏みしめる草鞋の間から染み込む水の冷たさに足の感覚がなくなっていくのがわかります。

托鉢を行う上で大切なことは、貪りの心をおこさないことです。道元禅師さまは正法眼蔵の中で次のようにお示しです。

「その布施といふは不貪なり　不貪といふはむさぼらざるなり」家々を歩いていますと浄財をいただける家、そうでない家様々ですが、区別なく歩くように心がけなければなりません。

こうして集められた浄財は、毎年社会福祉団体へと寄付されます。永平寺では年に数回しか行われない托鉢ですが、大切な修行の一つです。

大本山總持寺

一年の締めくくりに

冬の夜の　池の氷の　さやけきは　月の光の　みがくなり

清原元輔

十二月は臘月とも称し、修行道場ではとても大切な月。一日から八日未明まで「臘八摂心（ろうはつせっしん）」が修され、八日にはお釈迦さまが悟られた日を祝う「成道会（じょうどうえ）」の法要を江川禅師さまがおつとめになります。

さて、今年も残り僅かとなりました。皆さまにとりまして今年はどのような一年だったでしょうか。二〇二〇年の東京五輪招致が決まって以来、日本全体が元気を取り戻したような雰囲気ですが、東日本大震災からの復興は未だ途上であり、放射能漏れ問題も出口が見えない状況であることも決して忘れてはいけません。まさに「忘るまじ東日本大震災」です。五輪の年は御両尊大遠忌法会の期間中であり、二祖・峨山さまの高弟で、五院の普蔵院を開かれた太源宗真（たいげんそうしん）さま六五〇回御遠忌の年でもあります。

来年はいよいよ国内九管区及び海外四布教総監部に於いて峨山さま六五〇回大遠忌予修法要が行われます。

また總持寺でも外部から高僧をお迎えして報恩法要が始まります。皆さまには、来年から再来年の本法要にかけ、是非とも總持寺に御参拝くださいますよう心よりお待ち申し上げます。

曹洞俳壇

選・村松五灰子

俤（おもかげ）を闇に託して門火果つ

秋田県　**鈴木ゑい子**

評　お盆には亡くなられた人たちの霊魂を門でお迎えするために、またお送りするために火を門前に灯す。その火もいよいよ消えようとしている。俤は届かぬ幽界の闇へと。寂寥感がある。

秋高し中古農機に人だかり

長野県　**下島　博**

評　抜けるような空の下、軽く紐でも引いての展示場だろうか。麦わら帽子や農具メーカー入りの帽子を被った日焼顔の人が集まり笑顔で品定めする様子が見える。季題で成功。

◆**朝顔にありあけ月のかかりけり**　岩手県　鈴木　道昭

◆**水澄みて空澄みてなほ進む過疎**　大阪府　柏原　才子

◆**五合庵諸手に包む良夜かな**　新潟県　星野　三興

◆**エンディングノート進まず秋の夜**　京都府　眞島　三郎

◆**人間を好きな金魚と同居中**　千葉県　蛭名　節昌

◆**亡妻の写真に映る曼珠沙華**　静岡県　富岡　一郎

◆**旅籠屋に胡弓泣かせし風の盆**　佐賀県　池内　淳子

◆**返本の遅れ詫びたりサングラス**　宮城県　小西　力子

◆**白粉花や八十路に生まる恋一つ**　神奈川県　大竹のり子

◆**雨音やこほろぎ鳴いて閑かなる**　岐阜県　成瀬　雅也

＊選者吟

ほつほつと鴨が来たよと嬉しげに

五灰子

＊作句小見

一年を締めくくる行事や気持ちのまとめと何かと気ぜわしい十二月。そんな忙しい時こそ一歩下がってみると身近に句材は多いもの。

年末ならではの季題が沢山有ります。歳時記を開いて其の季題に挑戦してみるのも楽しいことです。

曹洞歌壇

選・長澤　ちづ

置き去りし人の気配が残りいるペーパーバッグに子猫がねむる　三重県　野呂　と志

評　紙袋を覗いたら捨て猫がいたという小さな出来事が、何と豊かな空間となってよみがえったことか。躊躇して置き去りにしたらしい人の気配や、疑いもなく運命に身をゆだねて眠る子猫の無垢な有り様など、過不足なく詠い果せている。

満開のキンモクセイの小道行く少女は白き封筒持ちて　兵庫県　待元　明子

評　金木犀と白い封筒の取り合わせの妙。少女がそこに介在して一幅の絵を見るようである。ここから何か物語が始まりそうな予感に満ちている。

◆**默っていることが優しさとう歌に何度も何度もひとり頷く**　兵庫県　前田あつ子

◆**まだ少し生きる気がして太陽光発電パネル屋根に載せゆく**　岩手県　池田　眸

◆**穂孕みの稲田に満つる静けさや取水の音のさやかにひびく**　島根県　奈良　正義

◆**東日本震災あとの福島の子供らはやや肥満気味とう**　福島県　大槻　弘

◆**十五夜の月に想うは幼き日祖父剥きくれし梨の一片**　神奈川県　玉山　葉子

◆**実石榴の三つ四つ付けて撓う枝切り取り床の信楽に挿す**　新潟県　星野　三興

◆**はれやかに葉月の空は冴え渡り鳥雲に入る影もうれしく**　広島県　山田美智子

◆**おどろきて横断歩道に立ち止まる前行く老いの帽子とびきて**　山口県　中井　清子

◆**「お父ちゃん、先に死んだらすぐ呼んで」「ああ、呼んだる」と母に言ふ父**　茨城県　太田　弘美

◆**会ふのみに食うぶるのみに楽しかりわれら傘寿の祝ひのけふは**　秋田県　佐藤　和子

＊選者詠

半月はかすかふくらむ気配見す異郷の秋の夕空澄みて　ちづ

＊作歌小見

短歌は小さい詩形ですので、言いたいことを盛り込み過ぎず、言葉も最小限に使うほうが、すっきりとまとまるようです。空気の澄んだ秋には、殊にそれが思われます。太田さんの作品、「ああ、呼んだる」の方言に温かみがあります。